

日本ガラパゴス研究会(JAGS)に携わって

研究会理事 政木恵美子

私が日本ガラパゴス研究会（JAGS）に初めて参加したのは 2003 年のことです。高校時代に進化論に興味を持ち、ダーウィンが進化論を書くきっかけとなったガラパゴス諸島に行きたいと思いつつ、月日が過ぎ去っていました。そんな折り、広島に日本ガラパゴス研究会があり、ガラパゴス諸島に研修に出かけているという話を聞き、早速研究会に問い合わせその場で加入させていただきました。

2003 年の 8 月には会長他 4 名で、「ガラパゴスに生息する生物分布図作成のためのデータ収集」という目的で、12 日間ガラパゴス諸島を訪れました。何の資料も持たないで訪れた私は、現地で英語版の動植物の図鑑を購入し、観察後船に帰って、少しでも時間があれば会長からその日に見た動植物についてのレクチャーを受けました。ガラパゴス諸島での観察には、船で島々を周遊する方法と島のホテルに宿泊し日帰りの船で観察に出かける



<オオゲンカンドリ>



<ガラパゴスウミイグアナ>

2つの方法があります。私たちは効率良くたくさんの島々を訪れるため、船での周遊の旅を選びました。日本人は私達の5名のみでしたが、最終日は船上パーティーが催され、美味しい料理をいただきながら各国から参加した皆さんと会話を楽しみました。これまで全く知らなかった動植物や自然保護と観光を両立させているエコツーリズムの取組を知り、自然に対する畏敬の念を持つとともに、エコツーリズムという考え方に関心を持ちました。

その後はできる範囲で研究会の手伝いをするようになり、現在は理事（庶務幹事）として研修会の企画運営をしています。

本研究会は会員 100 名余りで、主には広島県在住の方ですが九州から関東まで様々な地域の方が所属しています。

また会員には大学教授から小中高の元教員、動物園の元職員、会社員、主婦まで幅広い方がいます。共通なのは皆さん自然が大好きで、動植物、地質等に興味を持っているということです。



<船上パーティー>



以前は毎年ガラパゴス諸島を訪れていましたが、ここ数年は「東洋のガラパゴス」の研修ということで日本の離島を訪れ、そこに生息する固有種等の動植物や地質の観察を行っています。これまでに小笠原諸島、南北大東島、昨年度は鹿児島県の出水の渡り鳥の観察と甕島（こしきじま）に出かけました。出水地方は1万羽以上のナベヅルがシベリアから渡ってくる世界最大の飛来地となっています。

<出水地方のナベヅル>

味深いものがあることを知りました。シロハラアマツバメはヨーロッパと西アフリカ間を約200日間休まず飛び続け、空中に漂う小さな昆虫を食べ、飛びながら睡眠を取っていると推定されています。鳥の渡りにはまだまだ解明されていない謎がたくさんあるようです。

さて、本会の活動は1週間あまりの自然観察研修会、広島と東京で行う例会、要望に応じた日帰りの研修会（今年度はオオサンショウウオの観察を予定）、11月の「国際協力・交流の日」への参加（講演会）等を行っています。また、毎年「ガラパゴス諸島」と題した冊子を発行しています。



<楽しかった！甕島にて>

私たちは、研修やエコツアーの開催を通していかに自然の保全に取り組むかなどの課題に取り組んでいます。また、皆さんに自然に興味をもち、親しんでいただけたらと願っています。